

〔論文〕

保育学生の絵本選択理由に関する計量テキスト分析

宮 崎 大 樹
Daiki Miyazaki

大阪総合保育大学
児童保育学部

本研究は、保育者を目指す保育学生が絵本を選択する際に何を理由に絵本を選択しているのか、その理由に注目し、明らかにしようとしたものである。絵本の選択とは曖昧で自由な意思のもとに行われているものであり、選択者自身も明確に自覚していない「隠れた絵本選択理由」を基準に絵本の選択をしている可能性があると考えた。そこで本研究では、まずは保育者を目指す保育学生を対象として、「隠れた絵本選択理由」を明らかにすることを目的として、絵本選択に関する自由記述から得られた質的データを計量的に分析し、考察を加えた。計量テキスト分析を実施し、共起ネットワークに示された語のつながりをもとに、6つのグループに分けて選択者の選択理由について考察を進めた。その結果、保育学生たちの絵本選択理由は「絵本の持つメッセージ」「絵のきれいさ・かわいさなど」「心のあたたかみなどを感じること」「絵本を通したつながり」「絵本の世界に広がる不思議さ」「選択者自身の思い出や経験」の6つに整理することができた。

キーワード：保育学生、絵本、計量テキスト分析

I はじめに

絵本は広く保育の現場でその保育活動に取り入れられている教材である。幼稚園教育要領（文部科学省、2008）には、領域「言葉」において絵本に言及されており、保育の内容には「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、創造をする楽しさを味わう」とある。また、内容の取扱いでは「幼児が生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり、言葉あそびなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること」と説明し、幼児期において絵本や物語に親しむことの重要性を繰り返し強調している。保育の現場においては、保育者による読み聞かせを通して幼児が絵本に触れる機会が多いであろう。幼児期における読み聞かせの重要性については、横山ら（2008）や松崎（2020）が明らかにするなど、これまでに多くの研究が行われ、その重要性を重ねて主張してきた。また、南陽（2017）が、CiNii（国立情報学研究所学術情報ナビゲーター）において「保育」「領域」「言葉」等のキーワードを使って抽出された論文の内容を調査、分類した結果、対象となった1991年以降の保

育内容「言葉」に関する研究では「絵本・紙芝居」に焦点を当てた研究が最も多いことが明らかになっている。この研究結果からも分かるように、保育における絵本の持つ役割は研究対象としても関心の高いものだといえる。

保育の現場で読み聞かせを通して子どもたちと絵本とが出会う際、子どもが特に要望しない場合は絵本を選択するのは保育者であることが多いだろう。保育者が絵本を選択するとき、どのような基準で選択するのか。子どもと絵本との出会いにおいて、保育者の絵本選択の持つ役割は大きい。森谷（2002）が、読み手である大人が意図をもって絵本を読むことが重要だと述べ、読み手の意図の重要性について言及したように、絵本を選択する際、そこには何らかの保育者の意図が存在するはずである。しかし、和田（1995）は、保育者が子どもの要望によるのではなく絵本を選択する場合、半数以上の保育者が無意図的に絵本の読み聞かせを行っていると主張した。つまり、意図を持った絵本選択が重要であるにも関わらず、保育者の多くは意図を持つことなく絵本を選択している現状があるということだ。しかしながら、これらの研究は1990年代から2000年代初期に行われたものであり、その後、行われてきたいくつかの研究によって、保育者が決して無意図的に絵本選択しているわけではないことが明らかにされてきた。佐藤ら（2007）は、保育者の絵本選択理由と経験年数の関連に注目し、経験年数を積んだ保育者ほど、幼児のその時の姿だけでな

く、保育内容を高めようとする思いがみられたり、自らが願う幼児の姿を描きながら絵本選択を行ったりするという保育経験年数によって選択行動に違いがあることを明らかにした。また、藤岡ら（2016）は、幼稚園における3年間の保育記録（3・4・5歳児クラス）から、読み聞かせを行った絵本のタイトルを収集し分析を行い、読み聞かせ対象の子どもの年齢によって選書の理由も異なることを示した。

絵本の選択において保育経験が関連する場合、保育経験段階ごとの選択理由傾向をより詳細に把握しておくことで、例えば若手保育者がベテラン保育者の視点を持って絵本を選択することが可能になるかもしれない。さらに言えば、保育者養成段階における保育者を目指す学生（以下、保育学生）の選択理由を明らかにすることで、今後の保育者養成におけるよりよい指導に向けての課題を探ることができると考えた。これまでに、森（2019）が短期大学に在籍する保育学生143人分の絵本選択理由について分析をするなど、いくつかの保育学生の絵本選択に関する研究が見られる。しかし、これらの研究では、回答にある程度の制限が設けられていたり、自由記述内容を研究者がカテゴリー分類したりするなど、少なからず研究者の意図の関与する分析方法が用いられていた。中田ら（2021）は、これらのバイアスを取り除き、データから何が言えるのかをデータドリブン型でアプローチし、学生が授業の課題として作成した絵本カード（1学生あたり100冊）をもとに抽出した各絵本に関する3つのキーワードに対して計量テキスト分析を行った。その結果、キーワードの共起ネットワークが分断されることなく構造が保たれ、全体として意味的につながりをもった一つの島で構成されることが発見されている。

たしかに、絵本選択者が明確な選択理由を自覚した上で絵本を選択している場合、選択肢を用いたアンケート調査や、キーワードをあげることで一定の傾向が明らかにすることができるであろう。しかし、こうした明確ないわば「見えている絵本選択理由」だけでなく、絵本の選択とはもっと曖昧で自由な意思のもとに行われているものではないだろうか。選択者自身も明確に自覚していない、「隠れた絵本選択理由」を基準に絵本の選択をしている可能性もある。だからこそ、保育現場で人気の絵本というのは一定固定されつつも、それぞれの子どもにはまた別の好きな絵本が存在するのであろう。

以上のことから、保育者の絵本選択を明らかにするためには、これまでに行われてきた「見えている絵本選択理由」に関する調査・分析だけでなく、「隠れた絵本選択理由」についても明らかにする必要があると考えられ

る。そこで本研究では、まずは保育者を目指す保育学生を対象として、「隠れた絵本選択理由」を明らかにすることを目的として、絵本選択に関する自由記述から得られた質的データを計量的に分析し、考察を加えた。

II 方法

1 研究の対象

筆者が授業を担当した「教育原理」の授業を受講したA県の短期大学保育者養成課程に在籍する2021年度に2回生であった学生78名（提出76名、回収率97.4%）、及び「国語科教育法」の授業を受講したB県の保育者・小学校教諭養成課程に在籍する2022年度に2回生であった学生101名（提出93名、回収率92.1%）が作成した「おすすめの絵本紹介ポップ」に記述された自由記述、計169名分を分析の対象とした。

授業の中で、書店などで本を紹介するために用いられるポップを、自分のおすすめの絵本について作成する実践を行った。絵本選択の基準は、「保育現場で読み聞かせをする」ことを想定した場合に保育者や保育学生に対しておすすめしたいものであることとした。作成したポップに「おすすめ文」を添えて作成するようにし、本研究で分析の対象としたのはこの「おすすめ文」の記述である。

2 データの分析方法

フリーソフトウェアであるKH Coder（Ver.3）を用いて、計量テキスト分析を実施した。本研究においては、計量テキスト分析を「計量的分析手法を用いてテキスト型データを整理または分析し、内容分析（content analysis）を行う手法」とし、「自動抽出した語を用いて、恣意的になりうる操作を極力避けつつ、データの様子を見る」（樋口、2020）ために、頻出語の抽出及び共起ネットワークを作成した。

3 倫理的配慮

本研究の対象者には、研究の目的及び内容と併せて、本研究で得られた情報は研究及び教育目的にのみ使用し公開の際には個人名が特定されないように統計的に処理することを口頭で説明し、対象者より同意を得ている。また、研究への不参加（提出したポップを分析対象からは外すこと）を希望する場合は申し出ること、研究への参加・不参加と授業の成績評価には関わりがないことを伝えた上でポップの作成及び提出を求めた。

Ⅲ 結果

提出された169のおすすめ文の全記述に対して計量分析を行った結果、総抽出語数21,712（使用語数8,300）、異なり語数2,294（使用語数1,968）であった。総抽出語21,712のうち、一部の品詞（助詞・助動詞）などを分析対象から除外しているため、8,300語のみが分析対象とされた。このうち複数の記述に重複して使用されている語があるため、実際に分析に使用された語は異なり語の中の使用語、つまり1,968語であった。また、169のおすすめ文において1,001文の記述があり、共起ネットワークは「文」を対象にその共起関係を表している。

このうち、頻出語のリストを表1に示す。「絵本」が最も多く、次いで「読む」「思う」「子ども」が100回以上出現した。24回出現した「そらまめくん」は、そらまめくんシリーズ（なかや みわ 作）の登場人物名である。7名の学生がこのシリーズの絵本をおすすめの絵本に選択したため、おすすめ文の中に多く出現した「そらまめくん」が上位頻出語として出現した。

次に、共起ネットワークを図1に示す。出現数の多い語ほど大きな円で表現され、共起関係のある語が線で結ばれている。この図は、15回以上出現した86語を対象として共起関係を示したものである。これらのうち、3語以上の語で構成されたネットワークをカテゴリーに分

けて整理したところ、6つのカテゴリーに分類することができた。ただし、「ねずみくん」「チョッキ」「動物」の3語と、「そらまめくん」「ベッド」「ない」の3語のネットワークについては、特定の作品についての記述だと考えられるためカテゴリーに含めていない。

Ⅳ 考察

169名の保育学生によって記述された絵本のおすすめ文について計量テキスト分析を試みたところ、出現した語に関する共起ネットワークは大きく6つの分断された島・グループによって構成される結果になった。これは、保育学生が絵本をおすすめする基準として一定の方向性を持つというよりは、ある程度個人によって異なる傾向を持って絵本を選択していることを示唆している。これ以降、それぞれのグループについて考察し、絵本の選択理由を整理していく。

1 絵本の持つメッセージが選択理由になっている

最も多くの語で構成されているグループである。最頻出語の「絵本」を中心に「読む」「思う」「子ども」などの上位頻出語が集中している。このグループにあって、直接的に7つの語と共起関係が認められる「大切」に注目したい。「大切」が見られる記述には以下のようなも

表1 頻出語上位40個

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	絵本	246	21	色	33
2	読む	187	22	出る	32
3	思う	158	23	お母さん	31
4	子ども	126	23	食べる	31
5	本	76	25	動物	30
6	お話	64	26	家	27
7	気持ち	59	27	お気に入り	25
8	絵	52	27	前	25
9	友だち	48	29	そらまめくん	24
10	人	45	29	大人	24
11	大切	44	29	探す	24
12	たくさん	39	29	伝える	24
12	自分	39	33	作る	23
12	描く	39	33	物語	23
15	感じる	38	35	ページ	22
16	楽しい	36	35	出会う	22
17	心	35	35	保育	22
18	一緒	34	35	魅力	22
18	見る	34	35	優しい	22
18	好き	34	35	遊び	22

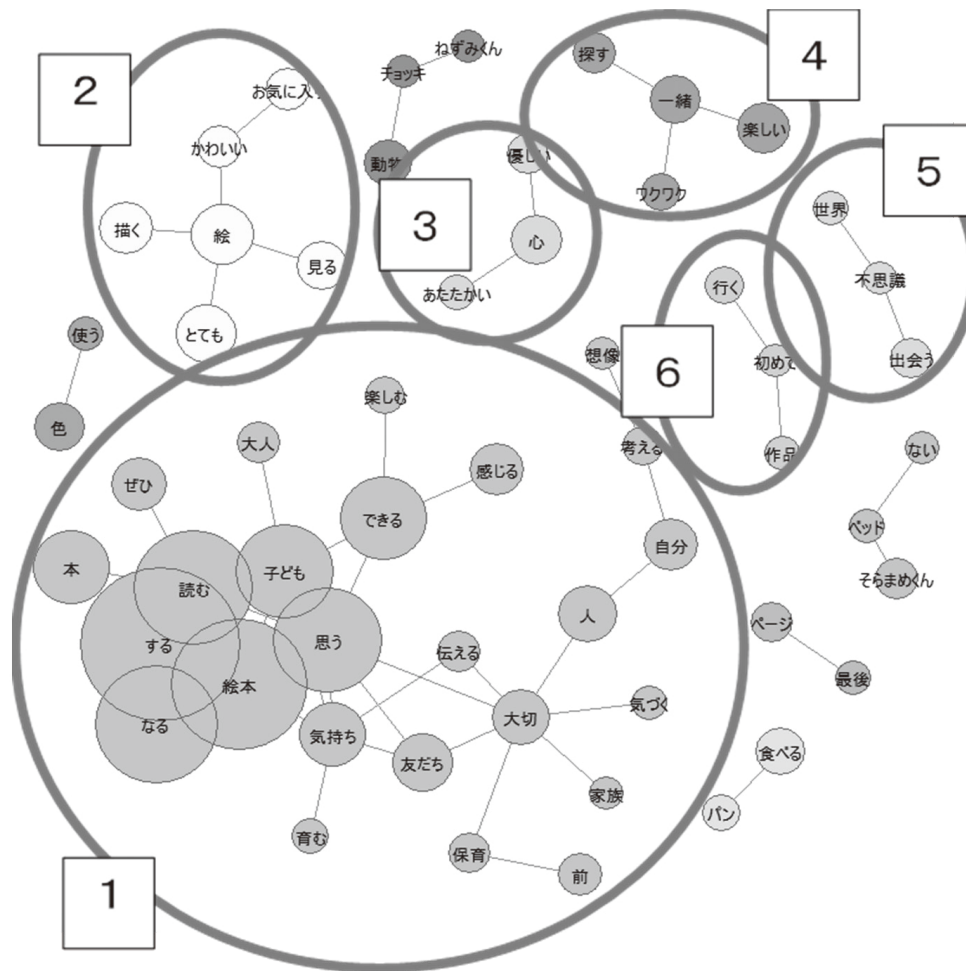


図1 おすすめ文に出現した語の共起ネットワーク

のがある。(文の一部を紹介。下線は筆者による。)

- ・子どもたちにお友だちを大切にする気持ちを持ってもらいたいです
- ・人の良いところを探してみたり、じゃんけんで順番を決める3人の妖怪を見て、きまりの大切さを感じることができると思います
- ・命の大切さ、自然の恵み、他の人や物を大切に思う思いやりに気づく事が出来ると思います
- ・友だち一人ひとりの個性を認め合うことの大切さが分かりやすく表現されている絵本です

「大切」という言葉が、命やきまりなどの言葉と結びついて表現されている。これより、選択者が何かを大切にしてほしい、大切に気付いてほしいというメッセージをこめて絵本を選択していると考えることができる。つまり、選択者は絵本を通じてその世界を楽しむだけでなく、子どもたちに届けたいメッセージがあり、選択者の思いに近いメッセージを持つ絵本を選択していると推察できる。

2 絵のきれいさ・かわいさなどが選択理由になっている

出現回数8位(52回)の「絵」を中心にしたグループである。「絵」を中心に「見る」「描く」といった頻出語も見られる。「絵」が見られる記述には以下のようなものがある。(文の一部を紹介。下線は筆者による。)

- ・自分はこの絵本のお気に入り、絵がかわいくて、絵本をめくるときに楽しくなる絵本だからです
- ・内容も絵もかわいくて、読めば読むほど色々な絵が発見できるので何度読んでもあきません
- ・絵がちぎり絵でできていて全体的に柔らかな雰囲気の絵本になっています
- ・絵や色づかいがやわらかく、優しい気持ちになります

「絵」そのもののよさを強調した表現が多い。ストーリーとの関連においての絵のよさというよりは、絵自体の雰囲気を楽しむといった内容の記述が多く、絵のきれいさやかわいさが選択理由になったと推察できる。

3 心のあたたかみなどを感じることが選択理由になっている

出現回数17位(35回)の「心」を中心にしたグループである。「心」に加えて「あたたかい」「優しい」の3語のみで構成されており、「心」が見られる記述には以下のようなものがある。(文の一部を紹介。下線は筆者による。)

- ・たくさんの心があたたかくなる言葉が何度も出てきて、読んでいるととても嬉しくなります
- ・大人でも子どもでも心にしみるステキな絵本です
- ・私は特にこの絵本のくまくんが「きみといるだけで幸せなんだよ」と言うところが気に入っていて、心がほっこりして、幸せな気持ちになります
- ・いつ読んでも心があたたかくなる、お腹のすく絵本です、ぜひ読んでみてください

「心」がワクワクするや、心躍るといったような動的な心の動きを取り上げた記述よりは、心あたたまるや心がほっこりするなどの静的な心の動きを強調した記述が多かった。これらのことから、心のあたたかみなどを感じることができることが選択理由になったと推察できる。

4 絵本を通したつながりが選択理由になっている

出現回数18位(34回)の「一緒」を中心にしたグループである。「一緒」に加えて「楽しい」「ワクワク」「探す」の4語のみで構成されている。「一緒」が見られる記述には以下のようなものがある。(文の一部を紹介。下線は筆者による。)

- ・この絵本は宿題やお手伝い、部屋掃除などやりたくないことだらけの僕がロボットと一緒になって一生懸命考えていく姿がとても面白いです
- ・この絵本を読んで、子どもたちに友だちと一緒になんでも楽しむ気持ちを感じてもらえたらいいなと思っています
- ・私のお気に入りのところは普段自分たちが見る目線とはちがう虫の目線で描かれた描写がまるで読んでいる私自身も主人公と一緒に小さくなり、冒険している気分になってワクワクするということです
- ・お話が終わったあと、ページがさらに横に広がって、108ぴき目のひつじを探すというお楽しみがあるので、子どもと一緒にワクワクして絵本を楽しめるとしています

「一緒」という語を中心に、登場人物同士のつながりに注目したり、主人公と読み手の心のつながりや読み手(保育者)と子どものつながりに注目したりするなど、絵本を通したつながりが選択理由になっていると推察できる。

きる。

5 絵本の世界に広がる不思議さが選択理由になっている

出現回数18位(34回)の「不思議」を中心にしたグループである。「不思議」「世界」「出会う」の3語のみで構成されるグループである。「不思議」が見られる記述には以下のようなものがある。(文の一部を紹介。下線は筆者による。)

- ・不思議な世界に読んでいる側も引き込まれるような作品で大人も子どももワクワクする内容になっています
- ・その不思議さ、面白さを感じることでできる絵本だと思います
- ・りんご一つから不思議な考えや様々な想像がふくらんで、私たちの頭の中にある固定概念をぶち壊してくれる
- ・不思議な出来事を3人と一緒に冒険できる楽しさが一番のお気に入りです

絵本の世界に広がる非現実的な「不思議」さや面白さに魅力を感じていることが分かる記述が多く、その「不思議」さが絵本選択の理由になっていると推察できる。

6 選択者自身の思い出や経験が選択理由になっている

出現回数15回の「初めて」を中心にしたグループであり、「初めて」「行く」「作品」の3語のみで構成されるグループである。「初めて」は頻出語上位40位までには入っておらず、グループ全体の総記述数はここまでの5つと比べると最小である。「初めて」が見られる記述には以下のようなものがある。(文の一部を紹介。下線は筆者による。)

- ・私がこれまで絵本を読んだ中で初めて泣きそうになった絵本です
- ・この絵本は、私がおばあちゃんからもらった、初めての絵本です
- ・インターンシップで初めてこの絵本に出会い、そして初めての読み聞かせをしました
- ・この本は、私が初めて本を一人で読めるようになったときに読んだ絵本です

ここまでに見られた絵本の選択理由の傾向とは異なり、「初めて」を含む記述には選択者自身の思い出や経験が主に記されていた。選択者自身にとって思い出深く、大切な本であるから他者にもおすすめしたい、子どもに読んであげたいと考え、それが絵本選択の理由になっていると推察できる。

以上のように、本研究では、保育学生を対象として、「隠れた絵本選択理由」を明らかにすることを目的とし

て、絵本選択に関する自由記述から得られた質的データを計量的に分析し、共起ネットワークに示された語のつながりをもとに、6つのグループに分けて選択者の選択理由について考察を進めた。その結果、保育学生たちの絵本選択理由は「絵本の持つメッセージ」「絵のきれいさ・かわいさなど」「心のあたたかみなどを感じること」「絵本を通したつながり」「絵本の世界に広がる不思議さ」「選択者自身の思い出や経験」の6つに整理することができた。森（2019）は、短期大学に在籍する保育学生143人分の絵本選択理由について分析した結果、「自分の経験や思い出が一番強く影響している」ことを明らかにしたが、本研究の結果はそれとは異なった。それは、本研究が「おすすめの絵本」というテーマで絵本を選択するようにしたことが原因であるとも考えられる。また、短期大学の1回生を対象とした森（2019）に対して、本研究では短期大学及び大学2回生を対象とした。教育実習やインターンシップを通して子どもと触れ合ったり、実際の保育現場で読み聞かせをしたりした経験によって絵本の選択理由が変化する可能性は大いに考えられる。今後は、保育者の経験年数による絵本選択理由の変化やその傾向を明らかにしようとする研究同様に、保育学生の年次別に絵本選択の理由を詳細に分析し、その傾向を明らかにすることに取り組みたい。そうすることで、保育者養成段階における絵本に関する学びを一層充実したものにすることが可能になると考える。保育の現場においては、絵本の読み聞かせの技術が注目されやすいかもしれないが、絵本を選択する力も必要な力である。保育者を目指す保育学生たちが、保育の現場に出て保育者として子どもたちに絵本の読み聞かせをするようになったとき、それぞれに思いを持って絵本を選択でき

るように、今後、より一層詳細な絵本選択理由の調査・分析が必要であると考えられる。

文献

- 藤岡久美子・伊藤恵里奈（2016）. 幼稚園における絵本の読み聞かせの選書の分析 山形大学教養・教育実践研究, 11, 59-68.
- 樋口耕一（2020）. 『社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して－第2版』ナカニシヤ出版
- 松崎正治（2020）. 幼稚園の言葉の領域における絵本に親しむ意義とえほんの内容分析：レオ・レオニ『スイミー』を事例に 教職課程年報, 3, 33-45.
- 南陽慶子（2017）. 保育内容「言葉」に関する研究の動向と特質 こども教育宝仙大学紀要, 9（1）, 13-23.
- 森希理恵（2019）. 領域「言葉」における学生の絵本の選択理由の検討 大阪キリスト教短期大学紀要, 59, 58-72.
- 森谷幸子（2002）. 幼児の言語習得における絵本の役割 人間文化, 17, 153-160.
- 文部科学省（2008）. 幼稚園教育要領
- 文部科学省（2008）. 幼稚園教育要領解説
- 中田尚美・高松邦彦・中田康夫（2021）. 絵本の読み聞かせに関するデータドリブン型（データ駆動型）研究 神戸常磐大学紀要, 14, 30-37.
- 佐藤智恵・松井剛太・上村眞生・祝小力・趙京玉（2007）. 保育者の絵本選択の理由と経年数との関連に関する研究 幼年教育研究年報, 29, 59-64.
- 和田香譽（1995）. 保育者の絵本選択の意図に関する研究 日本保育学会大会研究論文集, 550-551.
- 横山真貴子・水野千具沙（2008）. 保育における集団に対する絵本の読み聞かせの意義－5歳児クラスの読み聞かせ場面の観察から－ 教育実践総合センター研究紀要, 17, 41-51.

付記

本論文に関して、開示すべき利益相反事項はない。